



Key person

—Selection of "Masters"—



株山田電機 代表取締役

三宅 昭司

「縁と運のお陰でここまで来ることができました」と歩みを振り返った三宅社長。
「山田電機」の前社長に会社の後継を打診されたことも、
会社に優秀な人材が揃ったことも、縁と運があったからこそだと謙虚だ。
縁や運を大事にするという仕事における姿勢は、
出会いと繋がり感謝して相手を尊重すること同義でもある。
しかし、自分の功績は周囲の存在があってこそだと思える、
他者への敬意を払う真摯な人柄が周囲の信頼を集めているのではないか。
良縁と幸運を味方に付けて、社長はさらなる成功を掴むだろう。

(対談記事は 42～43 頁に掲載)

「良い縁と運に恵まれて、ここまで来ました。
ついてきてくれたスタッフに感謝しています」



株式会社 山田電機

大阪府羽曳野市駒ヶ谷 1-1

URL : <https://www.yamada-denki.net/>



Column

縁と運を大事に、義理人情を重んじた誠実な仕事を心掛けているという三宅社長。「良い人とはばかり知り合います。たまたま飲んでいた居酒屋ですごく大きな会社の会長さんと仲良くなったこともあって、不思議ですね」と笑顔で語った。前社長から突然後継を打診されるといったエピソードからも、どこか周囲の人を惹きつける魅力を持った人物であることが伝わってくる。

「50 歳近くで会社を引き継いでここまで頑張ってきましたが、やはり年齢は関係ないですよ。やり過ぎかと思うくらい頑張ってきましたが、そのお陰だと思います。やはり一番は縁と運があったからこそです」と謙虚な姿勢でこれまでの道程を振り返った社長。「会社にごんない人がいれば」と考えていると、探していた通りの人が次第に集まってくるのだとか。今は理想通りのスタッフが「山田電機」に揃っており、優秀な人材ばかりだと社長も自信を持って答えていた。「縁と運のお陰」と社長は言うが、魅力的な人物が集まっている理由はそれだけではないはず。「この人についてきたい」と思わせる芯力が社長にあるからだろう。まさしく経営者になるべくしてなった人物だ。



むしろ未経験だからこそ飛び込めたようにも思います。電気工事業界の厳しさを知っていたら、あれこれと現実的に考えてしまっただろうにいたでしょう。それにこんな機会もなかったに違いありません。電気は社会インフラの一つですから需要がなくなることはいないと感じました。それが50 歳手前のころですね。

——そこで行動を起こせる好気風やバイタリティーの強さは社長の武器ですね。

**義理を欠かない誠実な仕事を心掛けて
人材育成に励み 100 億円企業へ**

——歴史ある会社の代表となってプレッシャーもあったかと思いますが、いざ会社を引き継いだ後、いかがでしたか。

働いていた社員がそのまま残ってついてきてくれたので、とても助かりました。もちろん私もむしむしに働き、全国にお客様がいるので日本中を飛び回りました。15 時間くらい働いて鹿児島県の現場に行っていたこともありましたが、この前は広島県の現場にいて、今度は帯広の現場に行く予定です。

——全国から仕事が無数に送られているんですね。それだけ業界で必要とされている存在ということでしょう。順調に推移さ

れている様子が窺えますが、社長がお仕事をする上で大事にいらっしゃることは何でしょうか。

縁と運を大事にしています。そして、義理を欠かないこと。不義理をする人は距離を置くようにしていますね。今はネットの時代ですから、信頼や義理を大事にする付き合いが希薄になっていますが義理を根柢にしていなければなりません。

——そうして訪いた良縁が、仕事を呼ぶ一因でもあるのでしょうか。ところで、現在の御社の体制は？

工場や倉庫がありますから、職人や事務方、ドライバーなどを含めると 30 人以上はいますね。売上が 100 億円を超える会社というのは、二番手がかかりと育っている会社だと思っています。100 億円企業となれるように、しっかりと人材教育に力を入れていきたいですね。

——社長のような義理人情に厚い方の下でなら安心して仕事ができると思いますし、スタッフさんはこれらからどんな成長を感じていらっしゃいますか。今後の目標について教えてください。

先ほどもお話ししましたが、100 億円企業にしたいですね。そのために二番手となる人材を 3 人は育てたいと思っています。候補はいるのですが、経

営視点を持って主体的に動くという点ではまだ未熟なスタッフもいるのでその意識を変えるところからですね。はい、いつも一生懸命に働いてくれている人材は宝です。私を信じてついてくれた人たちは、これからずっと大事にしていきたいですね。

(取材 / 2025 年 10 月)

After the Interview



「山田電機」さんを引き継ぐ前、三宅社長は表紙から「一度会社を離れたら大きな商売はしないように」と一度は釘を刺されたそうです。しかし、良縁はいつそりと社長の給料を使わずに貯めていて、それが代わり時のやりくり非常に役立ったとか。後に良縁は「よくここまで来る事ができたね」と労ってくれ、社長は「ここまで支えてくれて感謝しています」と語っていました。とても素敵な夫婦関係ですね。

ラッシャー板前・版